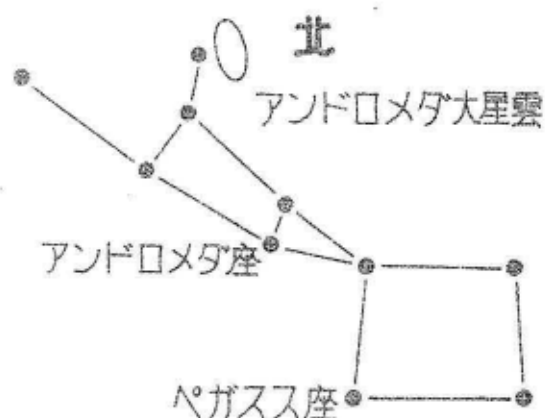


アンドロメダ大星雲

にぎやかな夏の夜空に輝いていた星たちが、西に傾きかけた秋の夜空には、落ち着いた光を放つ星たちが見えています。そんな星たちが作る星座の中で目につくのが、北斗七星のようなひしやく型です。こちらのひしやくは、四角形の部分がペガサス座、ひしやくの柄の部分がかんた座、アンドロメダ座の2つの星座からなっています。



アンドロメダ座の中に見えるボーッとした光のしみのようなものが、アンドロメダ大星雲です。この星雲は、空の暗い所ならば肉眼でもその姿を見ることができます。

この星雲は、私たちの地球を初め夜空のほとんどの星々のある銀河系の中にあるのではなく、その外にある巨大な銀河系外星雲と呼ばれるものです。そして日本から肉眼で見ることのできるただ1つの銀河系外星雲なのです。距離は約220万光年、つまり光の速さで進んでも220万年もかかる距離です。その大きさは、直径が約20万光年で銀河系の2倍もあり、その重さは太陽の約4000億倍もある大きなものです。



アンデロメダ大星雲のような銀河系外星雲の正体は、たくさんの星やガスが集まってできている星の大集団であり、私たちの銀河系もその1つなのです。また、その形は大きく次の4つの型に分けられます。

1. 橋^橋型 2. 渦巻型
3. 棒渦巻型 4. 不規則型

アンデロメダ大星雲は、このうちの渦巻型に入り、銀河系も同じ型になります。

まず、この星雲が細長く見えるのは、本来、円盤状をしているものをなめ横から見たためです。もしこの星雲を真上から見ると、ほぼ円形に見え、真横から見ると中央部がやぶくろんだ隙のように見えるはずです。

現在、私たちが見ているアンデロメダ大星雲は、ようやく人類が地球上に出現した頃、220万年も昔の姿なのです。秋の夜長に、220万年ものほるかほり時の流れに思いをはせながら、アンデロメダ大星雲をながめて見ではいかがでしょうか。(K.N)



富山市科学文化センター

富山市西中野町3丁目1番19号 (〒930-11)

電話 富山(0764) 91-2123(代表)